

2012（平成 24）年度
法務研究科 法務専攻（法科大学院）B 日程 入学試験問題
「小論文」
（120 分）

注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。

- 【問題】次の文書 1 は「集団の知恵」について述べたものである。この文書を読んで以下の設問 (A) および (B) に答えなさい。(配点100点)
- (A) 著者は「集団の知恵」とはどのようなものと考えているのか、解答用紙 10 行以内で述べなさい。
- (B) 著者の主張は妥当であるか否かを検討し、あなたならどのように考えるか、具体例を出しながら述べなさい。

文書 1

文書 1 の問題文は、著作権の都合により掲載しておりません。
ご不便をおかけしますことお詫び申し上げます。

文書 1 の問題文は、著作権の都合により掲載しておりません。
ご不便をおかけしますことお詫び申し上げます。

(出典：ジェーム・スロウィツキー著/小高尚子訳『「みんなの意見」は案外正しい』角川書店(2006 年)24-28 頁。なお問題文では、縦書きの原文を横書きに変えており、漢数字を算用数字に変えている。)

入試日程 B 日程 出題科目名 小論文

1. 出題の意図

(A)について

ジェーム・スロウィツキー著/小高尚子訳『「みんなの意見」は案外正しい』角川書店(2006 年)と題する本の中からの抜粋(24・28 頁)を読ませた上で、この筆者が述べたいところを的確に指摘し、要約することを求めている。限られた時間内で、文書を読解し指定された行数内でまとめる能力を試している。

(B)について

上記(A)を前提として、筆者の主張する「集団の知恵」という考え方に対する意見を、自分なりに咀嚼した形で論述できるかを試している。筆者の考え方の妥当性を判断するのに、具体例を交えながら述べさせることで、一つの考えを、抽象的ではなく個別事例に当てはめながら記述できるかも試している。(A)でまとめた内容を基にして、文を的確に理解し、それを個別事例に当てはめながら、筆者の論理を丸呑みするのではなく、一部は批判的にとらえられることを試す意図である。

2. 講評

問題文は、『「みんなの意見」は案外正しい』からの一部を抜き出したものであり、筆者は、「集団の知恵」つまり集合知という考え方を、例示しながら説明している。

(A)では、出題者としては以下のような点を期待していた。まず、筆者が述べている「集団の知恵」という考え方を正しく捉えてまとめることである。筆者は、スペースシャトルの爆発事件の原因追求と株式市場を例にして「集団の知恵」を説明しているが、この説明は全体の一部に過ぎず、筆者の述べたいことの全体像を想像し補いながら、簡潔にまとめられるかを試している。概ね、殆どの答案が規定の行数内で上手くまとめられていたが、本文を丸写しにしている答案が多く、自分の言葉として咀嚼した表現で書けた答案は少なかった。

(B)では、著者の考えを鵜呑みにするのではなく批判的な観点から、具体例を挙げながら広く自由に論じていただくという意図どおりに、答案には、さまざまな記述がなされていた。答案の中には、主観的な話を述べることに終始しすぎて客観的に検討ができておらず、バランスを欠く答案もあった。著者の主張する「集団の知恵」の考え方には、賛否両論があり得るのであり、どちらの立場をとるにせよ、理路整然と論理展開ができている答案には高い評価を与えた。特に、筆者が述べている 4 つの要件については十分に検討をして欲しかった点である。

小論文試験のように、短時間に文書を読みこなし、それを自分なりに理解して批判的に論評し、綺麗で読みやすい文章を書くことは、日頃から手書きで文章を書く訓練をしていないとできないことである。また、誤字が無く日本語として「読みやすく」「論理的な」答案と、そうでない答案があったのは例年どおりであった。